

平成 30 年度第 2 回愛知県外来種調査検討会議事概要

議題 1 条例公表種（沿岸域）の調査結果について

- ・資料 1 により調査結果について説明（事務局）。

議題 2 ブルーデータブックあいち 2012 の改定に向けた外来種（沿岸域）の調査結果について

- ・資料 2 により今後の外来種調査・ブルーデータブック改定のスケジュール（案）について説明。
- ・イッカククモガニについては、在来生態系に対する大きな影響の報告はない。（委員）
- ・チチュウカイミドリガニはやや減少した気がする。（委員）
- ・ウチワサボテンは、園芸品種が多く種名の特定が追いついていない。ブルーデータブックの改定にあたり、維管束植物についても分布表は必要か。（委員）
- ・維管束植物については、グリーンデータブックに詳細な分布情報が掲載されているため分布情報はブルーデータブックから削除し、1 種 1 頁の解説文を増やしたいという意見を前回の検討会でうかがっている。未確定ではあるが、そのように進めたい。（事務局）
- ・ブルーデータブック 2012 での前半のハンドブック部分と後半のデータブック部分は性格が異なるため、できれば分けて作成する方がよい。（座長）
- ・分ける方向で検討したい。（事務局）
- ・動物の分布表をどのようにするか検討していただきたい。現在のブルーデータブックでは県内を 17 区画に分けて掲載している。今回の調査では旧市町村単位で分布情報を整理しているが、動物全体で表現を統一するとすると 17 区分程度が限界かと思う。（座長）

議題 3 その他

- ・参考資料 1 により今年度の外来種対策事業について説明。（事務局）
- ・別途配布資料により特定外来生物スパルティナ・アングリカの確認状況について説明。
- ・参考資料 2 により特定外来生物スパルティナ・アングリカへの今後の対応について説明。（事務局）
- ・国内への移入が確認される前に環境省が特定外来生物として指定した種である。ヒガタアシに比べ全体的に小型で、ランナーの伸びが非常に少ないため、掘り取るのはヒガタアシに比べ楽だと思われる。一方、自然の力でも剥がれてしまうため、拡散するリスクはヒガタアシよりも大きいと思われる。（座長）
- ・花屋で中国産のススキを見かけるが、そのようなところから広がることがあるか。（委員）
- ・最近、高速道路の脇にヨシススキという 4m 近くになる外来種がみられる。おそらく

種子を入れた業者が、ススキと思ってヨシススキを入れてしまったということかと思う。(座長)

- ・最終的に大きく成長すれば非常に目立つが、そこまで成長していない目立たない小さな株が隠れている可能性は十分にあると思う。(委員)
- ・ハギも同様に、ハギとして入ってくる種子の中に色々なものが入っている。おそらく他の生物群でも同様かと思う。(座長)
- ・貝類では、定着しているものは少ないが、食用として出回っている貝類は全てあやしい。東京湾のハマグリはタイワンハマグリと混ざってしまっている。(委員)
- ・愛知県で発行する環境指標種ハンドブックの作成にあたり、外来種問題について原稿を作成した。外来種問題については、様々な人が様々な意見を言い、統一した結論は出ない。地球全体からみれば外来種は絶対に駆除すべき存在で、将来の拡散防止という点でも絶対に駆除すべきものである。しかし、現在の特にその大都市近郊の生物多様性という観点からみれば、必ずしも外来種の駆除が在来種の増加に繋がらない場合がある。単純に駆除すると、生物多様性を単純に減少させただけで終わってしまう可能性もある。それらのバランスで問題を考えるべきだと思う、ということをハンドブックに書いた。(座長)
- ・外来種の侵入が本当に在来種の生物を絶滅させた可能性があるかということについて、この20年間のデータ作成した論文が出た。外来種が入ることによって在来種の生息範囲が非常に狭くなるものの、一応生き残っているというデータも出ている。(委員)
- ・ビオトープで外来種を抜いたら、それにより土地が攪乱され、攪乱地を好む外来種が増えた事例がある。駆除活動が一步間違えると攪乱に繋がり、攪乱の結果として外来種を更に増やしてしまうことがあり、難しい問題があると最近感じている。(座長)
- ・ニュージーランドでは外来種の侵略性を評価する尺度があるが、日本には無く、主観的な評価に頼っているところがある。ヒガタアシのように明らかな侵略性があれば対応するということになるが、それ以外についてはなかなか対応できない。難しいとは思いますが、そのような評価尺度をどこかで作っていく必要があると思う。(委員)
- ・一般論として言えば、攪乱地や汚染の進んだ場所に入り込み、そこだけで増える外来種については全体に対して深刻な影響を及ぼすおそれは少ないと思われる。一方、自然性の高い地域に入っていく可能性がある外来種は危ないため、基本的にはよほど注意しなければいけないと思う。(座長)